

北日本新聞八月二日三十三面花火の記事を
読んで 蜻川小学校 五年 大江 崇仁
ぼくは花火大会をアピタの屋上で見ました。
毎年花火大会を見に行っているけど花火が空
しゅうぎ犠者のたましいをしずめるために行
なわれていることは初めて知りました。

六十九年前戦争があり、富山市にたくさん
のぼくだんが落ちてたくさんの方が亡くな
ったと母から聞きました。くわしいことは知
らなかつたのでおばあちゃんに聞いてみまし
た。おばあちゃんが小学二年生のときに富山
市にぼくだんが落ちてたそうです。おばあちゃ
んたちはぼくだんからにげていて、川の中
に入ったけど人が集まっていたのでぼくだんが
落とされやすいと思つたので、田んぼの中
にげたそうです。田んぼの中は熱くて兵隊さ
んが水をかけてくれたそうです。おばあちゃ
んはひいおじいちゃんの話もしてくれまし
た。ひいおじいちゃんは戦争へ行くときに船
がしずんでしまったので、おおはかにはほねが



ないそうです。

ぼくはおばあちゃんの話しを聞いて今の生活とくらべると戦争があったことが想像できません。花火を見るとときには、おばあちゃんが話しをしてくれたことを思いながら見たいなと思いました。



鎮魂・未来 思いはせ

北日本新聞
納涼花火

華麗なショーに歓声

夜空を華やかに染める光の花が開くたび、会場に笑顔と歓声があふれた。1日夜、富山市の神通川有沢橋下流で行われた北日本新聞納涼花火富山会場。集まった人は、平和への願いや来年開業する北陸新幹線への期待などさまざまな思いを胸に大輪を見上げた。【本記1面】

花火は午後7時35分ごろ、富山市で公演中の「ポップサーカス」のクラウン(道化師)らによるカウントダウンでスタート。高速で走る北陸新幹線を、一瞬で駆け抜ける光で表現した花火が披露され、観客は一気に引き込まれた。1日は長野・富山・金沢間の試験走行も始まり、高岡市向野町、会社員、荻矢啓輔さん(35)は「スピード感があって良かった。来年の開業が楽しみ」と声を弾ませた。暑さを吹き飛ばす華麗なショーを観客は楽しみに眺めた。滑川市下梅沢の専門学校生、黒田敏生さん(18)は「リ

ズムに乗り、迫力がと音楽に乗せた花火の様子。富山市の祖と訪れた福井市文京5年、南平悠羽さんニメ映画の曲に合わせた「一緒に歌おうけど、きれいで見とほほ笑んだ。富山大空襲から69年に集団的自衛権行使の憲法解釈変更の閣議あり、日本は大きな富山市掛尾町の



▲夜空を彩る大輪

に歓声

と歓声があふれた。1日夜、富山市会場。集まった人は、平和への願いを胸に大輪を見上げた。【本記1画】

これ、観った。来年の開業が楽しみだった。1と声を弾ませた。暑さを吹き飛ばす華麗なショーを観客は楽しみに眺めた。滑川市下梅沢の専門学校にて良か



ズムに乗り、迫力があつた」と音楽に乗せた花火に感心した様子。富山市の祖父母らと訪れた福井市文京、日新小5年、南平悠羽さん(10)はアニメ映画の曲に合わせた花火に「一緒に歌おうと思ったけど、きれいで見とれた」とほほ笑んだ。

富山大空襲から69年。7月に集団的自衛権行使を容認する憲法解釈変更の閣議決定があり、日本は大きな転機にある。富山市掛尾町の田林修一



創刊130周年を飾った文字仕掛け花火

さん(79)は、空襲を思い起こしながら自宅横から花火を見た。炎で照らされた空を飛行する米軍のB29爆撃機の姿が今も記憶に残る。父を戦争で亡くし、市遺族会長も務めており「思い出すのはつらいが大切な事。次世代にしっかりと伝えたい」と力を込めた。

本紙が「平和への願い」をテーマに募った作文コンクールで最優秀賞になった富山中部高校2年の辻井優里奈さん(17)「同市大町」も会場を訪れた。小学生の時、花火が空

襲犠牲者の鎮魂のため行われていると母に教わり、祖父から当時の話を聞いた。「今後も富山の空が美しい花火で彩られるように、戦争を許してはならないとの思いを強くした」と話した。

夜空を彩る大輪やスターマインに歓声を上げる大勢の観客

富山市の神通川有沢橋下流